

報道関係各位

2015年8月18日
パナソニック株式会社
森ビル株式会社

異業種連携により、未来の都市における新事業・サービスの創出を目指す 「暑さ対策」「コミュニケーション」をテーマに ヒルズで各種実証実験をスタート

パナソニック株式会社(以下、パナソニック)と、森ビル株式会社(以下、森ビル)は、訪日外国人が2,000万人に達するとみられる2020年に向けて、未来の都市づくりにおける新たな事業や商品・サービスの創出を目指し、森ビルが運営するヒルズをプラットフォームに、パナソニックが持つ環境技術・ICTソリューション技術などの実証実験を実施していくことを決定しました。

訪日外国人観光客の急増を踏まえ、各施設において、サービスやインフラ面において様々な整備が求められるなか、両社は、夏季の屋外イベントにおけるお客様への暑さ対策や熱中症対策、また言語の壁を越えたコミュニケーション対策に着目。この度の実証実験のテーマを「暑さ対策」「コミュニケーション」に定め、各種取り組みを行ってまいります。

虎ノ門ヒルズに「クールスポット」を設置

第1弾の取り組みとして、パナソニックが独自に開発を進める暑さ対策ソリューション「クールスポット」の実用化に向けた実証実験を、8月27日から森ビルが管理運営する「虎ノ門ヒルズ」(東京都)にて行います。クールスポットとは、ミストやエアカーテン、遮熱パネルなどを用いて夏季の屋外において冷涼空間を提供する設備です。将来的には、保水ブロックを地面に敷設することによる打ち水効果の実現や、太陽電池と蓄電池を備えた独立電源型システムへの展開を目指します。屋外スペース滞在時の熱中症対策などの利用シーンでその有用性の確認を行い、今後の商品開発に反映していきます。



クールスポット (イメージ)

「多言語自動翻訳機」の実用化に向けた実証実験

中国の建国記念日「国慶節」を含む中国の大型連休などを機に多くの訪日外国人観光客が見込まれる9月には、「多言語自動翻訳機」の実用化に向けた実証実験を六本木ヒルズ(東京都)及びヴィーナズフォート(東京都)で開始予定です。外国人観光客が多く訪れる両施設のインフォメーションにおける接客業務で実際に活用することで、自動翻訳機の有用性の確認や改善点の抽出を行います。

「都市の中の都市」であるヒルズは、リアルな実験の場としても最適な都市空間を擁しています。両社が未来の都市づくりに向けた事業創出に連携して取り組み、新たなソリューションを提案することで、お客様のご要望に応じた新たな商品やサービスの開発を加速させ、日本の“おもてなし”の進化にも貢献していきます。

【問い合わせ先】

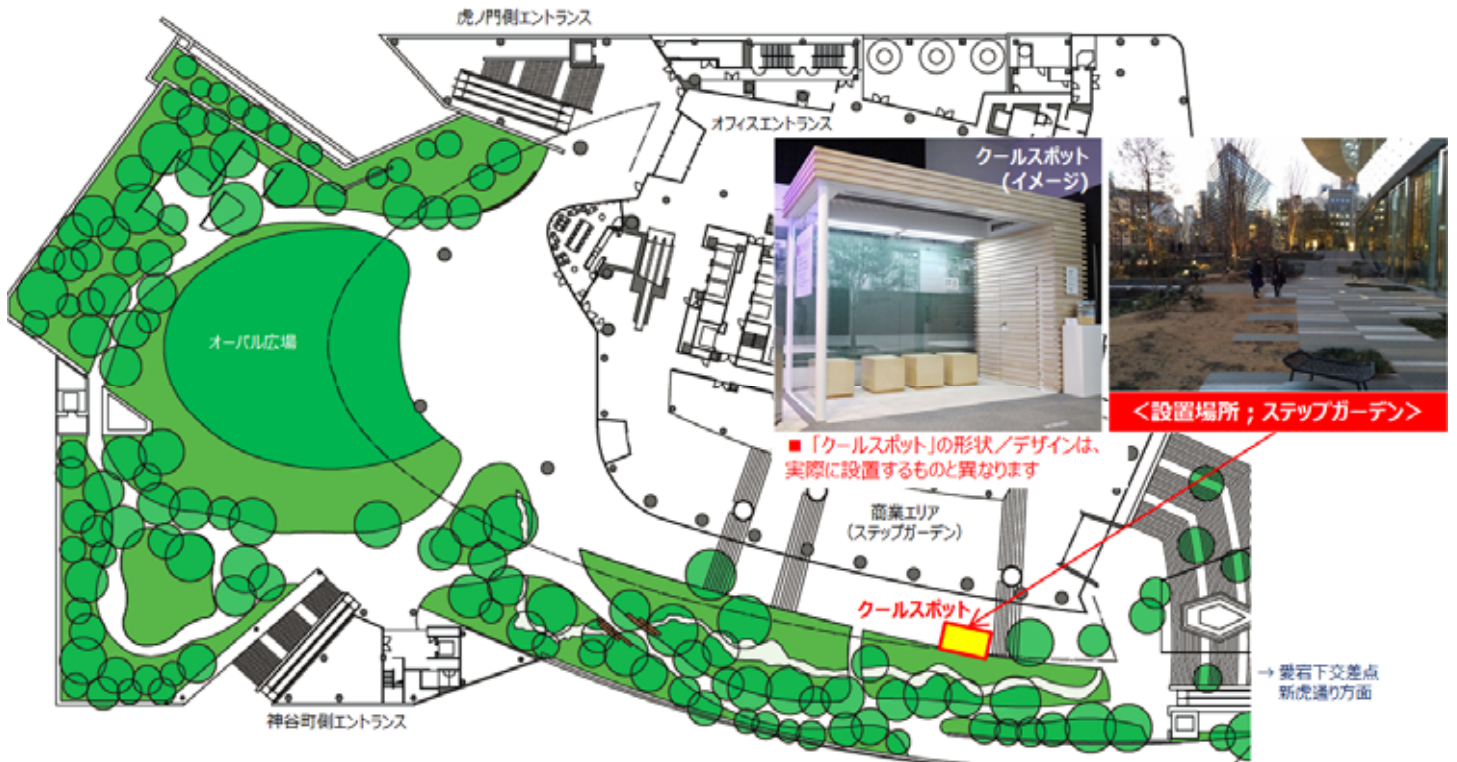
パナソニック株式会社 ブランドコミュニケーション本部 広報部

電話:(東京)03-3574-5661 (大阪)06-6908-0447

森ビル株式会社 広報室

電話:03-6406-6606

虎ノ門ヒルズ「クールスポット」実証実験 概要



期間：8月27日(木)～9月13日(日)まで
 時間：10:00～18:00 ※悪天時中止の場合あり

広さ：約6.7㎡
 収容人数：8人程度 ※大人で想定した場合

「多言語自動翻訳機」実証実験 概要

実証実験用機材 参考仕様

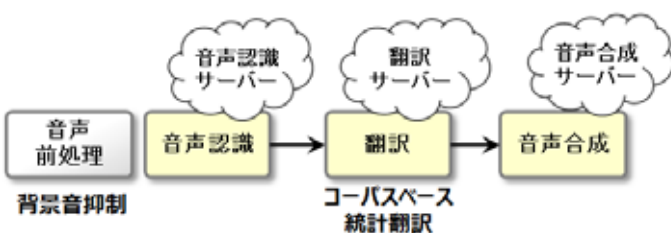
期間：9月25日(金)～10月22日(木)まで
 時間：各施設の営業時間に準じて実施

対面式音声自動翻訳システム (20型4Kタブレットを活用)

項目	詳細
本体サイズ、重量	約39 x 65 x 10 cm、約10kg
アプリケーション	ソフトボタン押下で、指さしマップのPDFファイル等のプリセットコンテンツを表示
対応言語	日⇄英・中・韓 (NICT様の翻訳・音声合成エンジンを使用)

多言語音声自動翻訳の概要

クラウドを活用して音声認識、翻訳、音声合成を実施
 雑音環境下でも明瞭な音を収集することが鍵



実験機材イメージ